

第2回 地域別懇談会(9/1-9/2) 主な意見

●西部地区 9月1日 10:00~12:00 開催 (出席:16名)

意見	事務局の回答
<p>普段西循環の市内循環バスを利用しているが、バスの時刻表が変わり、不便になった。例えば駅から病院に行く場合、帰りのバスがない場合がある。</p> <p>今はまだ自転車に乗れるが、歳をとっても行田で用足しをしたいと思ったときに、その区間の路線バスが不便であると困る。</p>	<p>→市内循環バスについては、平成 23 年の 4 月から観光拠点循環コースを追加し、6 路線で運行している。事業者や市民による地域公共交通会議の中で、より利便性の高い市内循環バスとなるよう検討している。ルートについては、市民の方の意見を踏まえて決めていくと聞いている。本日の意見については、担当課に報告する。</p> <p>→また、高齢者はバス停で長く待つことも負担になるため、ダイヤだけでなく、様々なご意見が出始めている。単に路線数を増やせばいいというわけではなく、いかに効率的に循環させていくかという視点も重要と考えている。</p>
<p>→南大通線からの観光のバスや工業団地行きの便が新しくできたため、西循環の便が減った。持田や西新町は住宅地なので、もう少し便数が必要なのではないか。</p>	
<p>→市の発展のために観光用の交通と工業団地のバスを増やしたことは分かる。しかし、住民本位のバスも重要である。</p>	
<p>災害対策はどのように行っているのか。西部地域の下には活断層がある。最悪の場合にはマグニチュード 8 以上の地震が起こるといった報道もある。そういう要素がある地域のマスタープランに災害対策の計画は別問題なのか。</p>	<p>→都市計画マスタープランの中では、地震に対する細かなところまでは踏み込めないとしても、まちづくりの視点として市民の皆様の安全・安心に重点を置いていきたい。</p>
<p>p.16「②良好な住宅地の形成」に「局地的な豪雨や台風等による浸水や冠水など水災害を防ぐため・・・」とあるが、壱里山町付近では、元荒川がいっぱいになると、道路が冠水することもある。行田市だけで対策できる話ではないが、周辺自治体とコンタクトを取る等の話があまり書いていない。熊谷市は早くに取り組み、公民館の側も立派な排水路が出来ているが、これも溢れるくらいである。鴻巣市では事業が進んでおり、これまでは田んぼが遊水地となっていたが、それが無くなり、貯水用の池を造っている。行田としては、雨水排水をどうしていくのか、調べていたのか。周辺市では事業が進み、その程度の貯水機能しかのこっていない。最終的に冠水を起こさないようにするには、元荒川の排水能力を県に要請して上げてもらえないか、快適な市民生活が送れるようにしてもらいたい。</p>	<p>→水災害については、所管部署による水害対策事業の計画が西部地区にあるが、進んでいない箇所がある。水路の管理は、行田市だけではないため、関係機関との調整を行いながら、事業を進めていくことになる。</p> <p>都市計画マスタープランには方針を記載し、この方針に基づき、所管部署が自ら実施計画を企画立案し、実施していくことになる。</p> <p>→都市の緑化については課題である。都心や県南では、工場の屋根を緑化するなどのヒートアイランド現象の対策を実施している。</p> <p>県内では過去 30 年間で東松山市の面積の緑が減少しており、本市では森づくり</p>

意見	事務局の回答
<p>また、現在は緑や水田が少なくなり、公園くらいしかない。緑を増やすには、付近に立派な水路があるが、蓋がけし、上に緑を盛ることはできないか。近隣市町村と話をし、住宅地の中に緑を増やすことも検討してほしい。</p>	<p>環境整備事業による森づくりに力を注いでおり、今後もより一層の緑化の推進をすすめていく。</p>
<p>p.15 に、この地区が行田の南の玄関とあるが、外に向けての玄関であれば、もう少し恥ずかしくないものをつくりたい。</p>	<p>→ J R 行田駅周辺については、都市拠点として、商業施設の誘導や子育て支援施設、行政サービス施設等の整備により、充実していきたい。</p>
<p>→行田駅で降りた方が、非常にさびしい思いをするという話を良く聞く。どこへ行けばよいか分からず、観光案内所やバスはあるが、初めての方は迷ってしまう。これについては施策が急がれる。行田市の玄関に相応しい施設を設ける、分かりやすい表示を設置する、車で来られる方もいるため市内のいたるところに設置しては。希望の場所に行きやすいように案内する看板が必要。</p>	<p>また、市内各地に快適な移動ができるよう、市内循環バスなどの地域公共交通の充実はもとより、駅前広場や案内板の整備等を行っていきたい。</p>
<p>行田総合病院のあたりの市街化調整区域について。これから開発されるのかもしれないが、先日農水省からの調査で、水田が多い地域について、周辺地域より温度が低いのではと検証しにきた。結果はまだ聞いていないが、住みよい環境というのは、気温も含めてではないか。水田がどんどん無くなると暑くなり、住みにくくなるのでは。</p>	<p>→水田にはその生産機能はもちろん、環境負荷の低減などにおいても重要な機能があるため、農地は集団的に維持し、開発するところと土地利用を明確にすみわけしていかなくてはいけない。</p>

意見	事務局の回答
<p>行田の空き家店舗は特殊である。跡継ぎがないため商売は行っていないが、住居と一体となっているため、居住はしている。このままでは、空き店舗の利用や活性化は難しい。大きな都市計画の中に組み込んで、後継者がいない商店街は区画整理等の手法で集約して、高齢者住宅の整備や市役所・病院まで歩いていけるゾーンをつくるというような施策も必要ではないか。</p>	<p>→中心部の空き家のほとんどが併用住宅であることは把握している。 →高齢率は一層増加する見込みであることから、共同化の促進など高齢者のまちなか居住を推進する施策を検討していきたい。歩いて暮らせるまちづくりという視点は重要であり、都市機能の集積や連続性のある歩行者空間の確保を図っていきたい。</p>
<p>計画案は大まかには良いが、長野地区でいうと、いろんな面で問題がある。道路の整備や東行田の商業衰退、県道の歩道が狭いこと等が問題で、特に佐野行田線は自転車も通りにくい。そういった身近な問題について関係部署に要望を行っているが、なかなか問題解決しない。</p> <p>人口減少については、地元の産業がしっかりしないといけない。例えば、雇用促進住宅は廃止が決定してしまい、260戸あった世帯が31戸に減った。雇用を増やすには優良企業が必要である。このままでは、そのうち行田が熊谷と合併してしまうかもしれないという心配をしてしまう。</p>	<p>→市としては、これまで企業誘致に関する部署が明確でなかったが、本年4月に企業誘致担当が新設され、産業振興を積極的に推進している。</p> <p>これからの取り組みについては、現在、産業振興ビジョンの策定に入ったところであり、この計画の中で施策を位置づけていくことになる。</p>
<p>昨年の地域別懇談会意見一覧の中で、「行田市は田園都市であり、コンパクトシティに向いていないのでは」という意見があるが、これには賛同できない。中心市街地の空洞化があるが、行田市全体でコンパクトを考えるのではなく、旧市街地の範囲で考えるべきである。例を挙げると、石巻市では震災後被災した土地を市が中長期に契約して借り上げ、土地を集約した中にスーパー、店舗つき住宅、防災広場等の整備をスタートしようとしている。このまちづくりは注目してみたいこうと思っているが、地方都市でコンパクトシティに取り組んでいるのはどこだったか。</p> <p>→他の都市でも、これからはそうなるのでは。中心市街地に住んでいながら店を閉めてるところ等は集約して、居住建物、店舗、防災広場、コミュニティ広場をつくろうといったミニコンパクトシティを実現できると良い。</p>	<p>→有名なのは富山市で、LRTという新しい公共交通を整備し、コンパクトシティを推進している。他には青森市など、どちらかという雪国が多い。ある程度まとまって居住することで、除雪等の公共投資も少ないということで、北の方がコンパクトシティを推進しているところが多いという認識である。</p> <p>→本市でも、今後のまちづくりの都市構造として、中心市街地などに公共公益施設や商業施設、福祉、医療施設などの都市機能が集積した集約型の都市構造を進めていく考え方である。</p>

意見	事務局の回答
<p>調整区域は合併浄化槽というなら、それを明確にしてほしい。水と緑といいながら、水質はひどくてどうしようもない。農業用水も家庭排水も一緒になっている。色分けをどうするかきちんと考えて、密集地帯は汚水排水路を整備する等対策が必要。</p>	<p>→前回の地域別懇談会でもこのような意見を頂いている。これを受けて、水質浄化という方針を位置付けさせて頂いたところである。</p>
<p>→南東部地域は農地が相当の面積を占めるため、水質はぜひ柱にしなければならない。それから、農業後継者の問題がある。大規模な農業経営ができなくなった農家がいた場合、その代わりになれる人を市で育てなければいけない。</p>	<p>→p.35 の図で分かるように、農地が非常に多い地域である。後継者の育成等、本計画に反映することができない部分については、担当課に申し伝える。</p>
<p>→20 年後に農地を誰が守っているのか。すでに農地をやめて休耕地が増えているのが現状である。現時点では、非常に高齢の方が頼まれて耕作を担っているのが現状である。</p>	<p>→p.34 の事業一覧の中に、集団的な優良農地の保全として入れているが、具体的に何をしていくかは担当部署が自ら計画をつくり実施していくことになる。また、農業を含めた産業振興ビジョンを本年度末までにまとめあげる予定になっている。その中で、都市計画課として今のご意見もお伝えしていきたい。</p>
<p>みなみ産業団地について、当初は地元も期待していた。結果的にああいう形になって、団地内はほとんどが物流倉庫である。新しい産業ゾーンも計画に出ているが、もう少し地域に密着した工業団地にというのをお願いしたい。焼却場の問題もあったが、足利では、まちの中に廃棄物処理場がある。そこはまちの中だが、周辺に害が出ない処理場がある。そういう面では地域の説得をして、広大な土地をつかって、今回のような失敗がないように進めてほしい。人口を増やす方向で考えなければならない。</p>	<p>→産業の空洞化を危惧する話は他地域でも多く出ている。雇用があれば、人が住みつき、人が増えれば地域は活性化する。産業を市から出さない、また、市に来てもらうことが求められている。一方で、需要は利便性の高い高速道路の IC 周辺に集まっており、そういった面で不利であるというのが現状である。その中で、ポテンシャルが高いのは国道 17 号熊谷バイパスの沿線である。上尾道路ができると圏央道の IC までの所要時間が短縮される。その暁には、緊急輸送道路となり位置づけも高まる。行田の中では一番可能性が高い場所と考えている。</p>

意見	事務局の回答
<p>南東部の道路事情がどう変わるか。朝夕の渋滞、特に埼玉交差点周辺がどう変わるか。その辺の予測はどうなっているのか。将来、交通量がどう変わってくるのか。</p> <p>古代蓮等を観光の拠点としていくのだと思うが、そういう面からみたときに、道路がどうなるのか。商業ベースの車と一般市民が生活で使う交通は切り離れた方がよいのではないか。狭くても安心な道路を整備し、通過する車はこちらをお通りください、とする考えの方がよいのではないか。建設費もそちらの方が安いのではないか。</p>	<p>→南東部ではアンケート結果からも交通面が非常に弱いとされており、道路網の整備が南東部にとっては非常に重要である。P.35の緑の路線が主な国県道であり、道路自体は整備されているものの、取り付きが悪かったり、渋滞が起きたり、歩行者が安全に通行できなかったり、といった事情があるため、これらの路線については、計画に位置づけていきたい。幹線道路と生活道路の役割を住み分けて位置づけていくという考え方は重要である。20年後にはさらに高齢化が進み徒歩で生活していく必要も高まってくる。安全・安心を確保していくことが必要で、道路の区分を明確にしていく必要がある。</p>
<p>p.34 事業一覧の中で、地域生活環境の充実の事業の中で、生活道路の整備及び安全対策とあるが、この中に、高齢化が進む中で買い物に行けない点については含まれているか。</p>	
<p>南東部は農地が多いということで、地場産業として農業を活かすことを考えていかなければならない。何か、これは行田でしかできないというようなものを考えられないか。米だけでは食えない状況である。農家でも食えるということを前提に進めていかなければならない。</p>	<p>→行田市はこの5年間で人口が3000人減った。このまま何の対策も取らなければ、20年後には今の人口の4分の1が減ってしまう推計となる。その上、高齢化率が37%という推計である。</p> <p>20年後の行田市を良い方向に持っていきたい。農業振興について本計画に反映できることは限られているが、方向性を示す上で漏れがないように示していく。</p>
<p>高齢化率が進行していくが、地域のコミュニティの場づくりというのも考えてもらいたい。閉鎖となった老人ホームの建物を壊すのではなく、活用等も検討してもらいたい。</p>	<p>→老人ホーム跡地の有効活用のための委員会が庁内で立ち上がり検討を進めている。</p>

意見	事務局の回答
<p>p.24②農村集落の景観の保全とあるが、市街化調整区域内に100㎡の家ができています。農転なり、開発許可なりを、開発分譲または1軒ずつに対して考えないと、乱開発という形になってくる。宅地の水は下水がないところに流してしまうため、十分に考えた上で許可しないとイケない。何でもかんでも人口を増やせばよいのではなく、このままでは集落の形成ができなくなってしまう。排水についても十分考慮しないとイケない。</p>	<p>→開発する事業者としてはそこだけの開発になるが、その後は市の費用負担による周辺整備が必要となってしまう。市街化調整区域の開発については、今後はより適切な開発を誘導するような施策が必要になるため、本計画でも明確に位置づけていく。</p>
<p>武州荒木の駅前が田んぼになっている。みどり豊かでよいかもしれないが、駅前をぜひ宅地化していただきたい。荒木地域の高齢化が進んでおり、農家も同様で、あと5年もすれば荒地になるかもしれない。耕地整理をしてなんとか田んぼを守っていかうということになり、来年から整備が始まる。荒木の駅前がかなりの面積があるが、ぜひ都市計画マスタープランに載せていただきたい。</p>	<p>→荒木地区は北部地区で唯一の鉄道駅を有する地区であり、本計画においても、駅周辺の商業施設等の充実について方針を示している。</p> <p>しかしながら、駅の南側は農振農用地であり、過去には土地改良等で投資している地区であることから、区画整理等の面的整備は困難である。</p>
<p>荒木にも少し家が増えているが、すべて市内からの移転で、市外からはあまり来ていない。</p> <p>千代田町の商業施設の手前のところに、あれだけの住宅ができています。ぜひ、駅前を宅地造成できるような方向で検討していただきたい。</p>	
<p>国道125号行田バイパスの沿道はほとんどが農業振興地域である。道路をつくる際に、もっと市街地の方に近づけて造ればよかった。バイパス沿道はいつでも開発できるようにしておかないと、人口はいつまでも増えないだろう。</p>	<p>→バイパスは、本線の渋滞緩和や迂回路としての役割もあるため、沿線全てを開発可能とすることは望ましくない。開発可能とする場所とすみ分けが必要である。</p>
<p>→昨年、星河公民館での市政懇談会に出席したときも、125号バイパス沿道には直売所等を造るということであった。そういう検討は市でも行っているのか。</p>	<p>→都市計画マスタープランとしては、そういった位置づけが可能になるように、p.26の方針2-⑤に、示させていただいている。道の駅等の具体策が話に出ていたが、それは一つの内容としてここにぶら下がってくることになる。</p>
<p>構想図には武州荒木駅周辺にしるしがついているが、具体的に何か行うのか。</p>	<p>→マスタープランは方針を示すものであるため、具体的にここに何をつくる、というレベルでは書かない。この方針に基づいて、各部署が企画立案して実行する</p>

意見	事務局の回答
<p>→もっと前向きな姿勢で計画を策定し、積極的に県へ働きかけるなどをしなければ、農業振興地域除外の話は進んでいかないのではないかと。</p>	<p>ことになる。</p> <p>→都市計画マスタープランは市の土地利用など都市計画の最上位計画である。一方で、農業振興地域整備法がある。都市計画課では、都市計画マスタープランでしっかり方針を示し、各セッションで具体的な検討を行い、それを基に農振地域を外してほしいという話をしていきたい。</p>
<p>→市が農振地域を外して市街化区域にする場合、農業を行っている人に意向を聞く必要がある。どこが市街化区域でどこが調整区域か、区域分けをする必要がある。市の方で一步前へ出て検討しなければ、同じ議論の繰り返しである。</p>	<p>→この問題については、昨年度の地域別懇談会や市政懇談会で様々なご意見をいただいている。</p> <p>現在、都市計画課や農政課、商工観光課が主体となってプロジェクトチームを立ち上げ、都市計画マスタープランの検討とは別に具体的な土地利用の検討や農振地域を外すという課題も含め、横断的に検討している。</p>
<p>→農地を持っている方すべてが市街化区域編入に賛成するわけではない。調整区域の方は税金が上がってしまう。そういったことも、一步進んだ中で議論していただきたい。</p>	<p>→優良農地を保全する場所と、開発する場所のすみ分けを検討し、方向性を明確にしていく。ハードルは高いが、農振農用地の見直しに手をつけていきたい。</p>
<p>→あと20年先に、農家や田んぼを耕作している方はどれぐらいいると予測しているのか。現在大規模に営農している方もどんどん高齢化してくる。20年先を考えておかないと話ができなくなる。</p>	<p>→農業就労人口について、現在値は把握しているが、予測データを持ち合わせていない。</p> <p>本計画の中では、土地利用の分野において、集団的な優良農地を保全していくという方針である。後継者問題等については、担当課に申し伝えるとともに、今年度中の策定を予定している産業振興ビジョンに反映していきたい。</p>
<p>→荒木辺りも農家が年々減っている。農地を持っている人が草だらけになるからと人に頼んで作ってもらっており、昔の地主と立場が逆転している。最終的に20年後の荒木辺りは今の農家はゼロになるだろう。残るのは農業生産法人。4つぐらいそういう団体がある。</p>	<p>→都市計画課は都市計画を進める立場で、農政課は農地を保全する立場であるため、背中合わせの役割である。そのため、ここに掲載している関係課で話し合う場を立ち上げたというわけである。</p>
<p>→以前から同じ話が出ているにも関わらず、前へ進まないのは、北部地域は農振農用地になってしまっているためである。そこから除外しないと、家を造りたい、何を造りたいといっても何も動かない。</p>	<p>→市でも情報収集に努めたい。スーパー堤防の計画はなくなったが、高規格堤防に</p>
<p>今年の4月頃、国交省から利根川の堤防強化について沿線の住民に手紙が来た。羽生市は6月に説明会が</p>	<p>→市でも情報収集に努めたい。スーパー堤防の計画はなくなったが、高規格堤防に</p>

意見	事務局の回答
<p>あったようだ。行田市は27年度に説明会を開くという手紙が来ている。27年を待つのではなく、堤防がどれくらい強化されるのかという情報を早く掴んで地元で話をしていただけるとありがたい。沿線住民は手紙を受け取って不安に思っている。</p>	<p>より法面が広がると聞いている。 →しかしながら、国も、どの程度の範囲で実施するか決まっていないと聞いている。今後情報が入れば、お伝えしたい。</p>



その他のご意見

項目	意見
●人口対策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少を施策によって食い止めるならば、よっぽど魅力あるものにしなければならない。</li> </ul>
●集約型都市づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田にはコンパクトシティは早い。10万人くらいの人口に対して、まちの中心部に人口を集めるような概念であって、景気のよいときにやるべきことである。</li> <li>・外環道路があって周辺に工場等があれば、当然中に住んで、職住近接が実現できる。</li> </ul>
●道路整備について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路は一度造ると元に戻らないため、道路を造る際は、その有効性をしっかり見極めてほしい。</li> <li>・行田は荒川と利根川に挟まれており、その中に高速道路が通っていない。行田からインターチェンジに出ようとすると渋滞している橋を通らなければならず、非常に不便である。</li> <li>・高齢化社会に向けて、ガードレールで囲まれた歩道とまではいかなくとも、ゴム製のポールを立てるなどしてはどうか。そのように、地域の道路の整備を考えていただけたらと思う。</li> </ul>
●緑の保全について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で緑を守るという視点からすると、手間と管理費かかって維持が出来ない状況である。加えて、木の高さや落ち葉について近隣からの不満を言われることもある。例えば、維持管理費は非課税にするという施策も考えられる。</li> <li>・緑は個人が維持するのか、公共が維持するのか。線引きをしてほしい。市の指定物になれば自由に切ることもできなくなる。このあたりも考えてほしい。</li> </ul>
●上水道について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道管の樹脂が剥がれるということで、何年か前に本管を付け替えたと思うが、枝管が残っている。半年に一回程度ストレーナーを掃除しなければならないが、水道局に連絡を取らないと、掃除できないものである。いつ交換するのかと聞いたところ、計画がなく、残りもたくさんあるということである。暮らしやすさとは、こういう部分の改善も重要ではないか。側溝がついているところは掘れないという問題もあり、上水道と下水道の連携がうまくできていない。</li> </ul>
●産業振興・雇用の創出について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の環境も大切だが、働く場所を創出するような都市計画でないと、人口は減るばかりである。</li> <li>・もっとユニークなものを考えてはどうか。秋田には就職に強い人気大学がある。行田にもものづくり大学があるが、企業が来てくれて、そこに輩出する人材育成をすることも考えられる。</li> <li>・行田は、工業団地に水が十分に供給できない。水が利用できないために優秀な企業が団地から抜けてしまった過去がある。水とみどりが良くなれば行田市も良くなることを謳っているが、それに対する手段が構築されていない。</li> <li>・現在はどんどん工場が減っている。これは、最初に工業団地を造ったときの入居条件が厳しかったためである。業種の細かな規定、建築基準法等、様々な法律に加え、高い土地代がついていたが、当時は景気が良かったため何社が入っ</li> </ul>

	<p>た。優良な企業が出て行くのは、東南アジアに工場を出すことに対抗できる地代や保障を提示できなかったのが本当の原因ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水利権の問題は、水資源公団との関係や水を利用する下流側での権利契約等、そういった問題を解決しない限り無理である。50年前は考えていなかった問題ではあるが、法律条例等で縛られてどうにもならない状態にあり、計画にも書きたいが書けないという部分があると思う。事実、市から各工場へ個別にお金が払えるはずがない。人口が減り、工場が減ることは全国的にいえることであり、製造コストが安い東南アジアに進出した企業に補助することなどできるはずもない。そのため、方針・方策でありながら、希望も入っている計画であると思う。</li> <li>・ 武蔵水路の水が使えないのであれば、どうしたら水を確保できて、行田市の水をきれいにできるかを考えればよい。井戸を掘ってもよい。他の都市では、各家庭に雨水を貯水して河川に流すという例もある。</li> <li>・ 数年前に酒巻導水路に水を流してくださいと市に提案したことがある。水利権によりできないと言われたが、土地改良区であれば上が県知事であるため、何とかなるはずである。</li> <li>・ 行田市が、埼玉県内の位置づけの中で、交通アクセスも含めて、どういった産業がありえるのか。次にどのような業種が有効なのか。</li> </ul>
<p>●農業について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業というものを、どういう特徴のあるものとして作り上げていくのか。特徴ある果物や野菜を行政で探して作っている事例もある。魅力がないと後継者も育たない。</li> <li>・ 新しい農産物については、行政が県の農業試験場などを活用して、行田にどういう作物が合っているのか等を研究してもらおうとよいのでは。みなさんがやってみようかと思える方向付けをしてもらいたい。それをやるにはどれぐらい投資が必要か、など。</li> <li>・ 農業を経験していない人が農業をやりたいという場合の支援なども考えていく必要がある。休耕田を市が借り上げて、新規に参入しやすい環境づくりをする等をしてはどうか。</li> <li>・ 農家の方で新しい設備が買えないので、稲刈りをお願いしたいという話が2件ほど来ている。うちは設備があるので協力している。そういう機材は、確かにJAがリースしているところはあるが、市としても介入し、安い設備で農業できる環境をつくっていく必要がある。</li> </ul>
<p>●観光について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行田市観光協会があるが、現状では民間の力がほとんど活用されていない。観光協会はまちの中にあるべきである。 店舗、企業の誘致、外から何かを持ってこない、まちは活性化されない。</li> <li>・ 商工観光課と観光協会という2つの組織の役割分担を明確にして、互いに別々の活動をして良いのでは。</li> <li>・ 行田駅から階段を下りた際に、目に付く場所に観光案内所の看板があればよいが、木に隠れた分りにくいところにある。</li> <li>・ 先日ぶらっと行田に行ったが、あまり人がいなかった。駅の近くにあった方が</li> </ul>

	<p>良いのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都民や近郊住民は、休みの日にはレジャーに飢えている部分がある。川越は観光客が多いが、見せるものがあり、お金をかけ、年間 600 万人を動員している。立地条件からして、行田市も不可能ではないのでは。テレビで取り上げられれば、観光客が増えたこともある。そういう意味では、今回ののぼうの城もチャンスになるため、このような機会を大いに利用して、観光のまちづくりを考えていく必要がある。</li> <li>・観光客を受け入れるだけの環境が十分に整備されていない。</li> <li>・のぼうの城が公開されることになるが、行田には映画館がなく、どこで上映させるのか。今のところ市内での上映は考えていないと聞いた。そういう姿勢ではだめである。</li> </ul>
●防災対策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害はいつ起こるか分からないので、そういった拠点を整備することは、子どもたちに対する現代の人の贈り物ではないか。</li> <li>・行田は災害が少なく暮らしやすいとも言われている。</li> </ul>
●ごみ処理について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理による発電というものが広がってきているが、これについて、行田市には考えがあるか。また、利根川の水を生かして、少しの水量でも発電できるような技術があれば良い。</li> <li>・地域で使う電気はその地域でつくれ、という流れになってくるかもしれない。ごみ処理場のような熱を利用することも考えてはどうか。</li> </ul>
●福祉サービスについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田市にはいきいきサポート制度があり、介護度のついていない要支援者が福祉サービスを利用するという制度を活用してはどうか。</li> <li>・一人暮らしの高齢者を毎日チェックするという取り組みはあるが、訪問したら何をしに来たんだと言われる。これは、市の説明不足もある。要支援者はたくさんいるが支援者の登録が少ない。PR が必要。</li> </ul>
●その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位をつけて、重点志向でやらないと、税収がいくらあっても足りない。資料としてはこうなってしまうのかもしれないが。〇〇の充実という言い方ばかりで、具体的にどう力を入れるのか分からない。労力だけ費やして立派だけど中身がないという印象を受けてしまう。</li> <li>・どの課が何を実施するかが明記されているが、コンセプトが明確でない。高齢化という問題があるのであれば、高齢化政策を 1～2 年の間に実施し、それから産業政策を 10 年以内に実施する等を明確にしてほしい。水とみどりのまちづくりというのは、前の計画でも出ているが、具体策が何も無い。もっと現実的に、実現可能なものにブレイクダウンされていけばよいが、スケジュールがきちんとされてないものは、市民としては同意できかねる。</li> <li>・現状の課題に対して施策がきれいに書かれているが、これらをすべて実践できるのか。具体的に、財政基盤からみればこの程度のことしかできませんと書いてあるならば理解できる。</li> </ul>